（八日夕刊）

磐城新聞

休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料 雜報欄行五十錢 場所指定三十錢増
發行兼編輯印刷人 遊沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

十姉妹の飼ひ方
抱中の心得その他

◇……小鳥の飼養は非常に盛んになりました、恰も小鳥時代が到來したかの觀がありますが之は趣味として至極高尚な爲めと副業としても意外な利益があるからで今回上げんとする十姉妹の純白なものでよいのになりますと數百圓といふ高値を呼んで居ります。そして此十姉妹は盛んに外國へ輸出されますから利益の點から見ると實に有望な副業であります。

◇……又内職を離れ愛翫といふ點から見ましても次ぎから次へと可愛らしい雛を生んで行くのを眺めて居ります。自然浮世を忘れ一家團欒の源となるものです。

◇……[illegible]のも小鳥中最も容易で高さ一尺三寸、幅一尺、奥行一尺一寸位の木箱の前面を金網にしたものを用ひ、金網の前に障子を箝め底は抽出しにして糞の掃除に便します。此木箱は御自分で作るのもよろしいのですが小鳥屋にゆきますと一圓五十錢位から二圓五、六十錢位の値段で賣つて居ります

◇……餌は摺餌の面倒がなく粟、稗、黍の一種或は二種交せてやり此播餌の外に青菜を與へ、清水を毎日とりかへてやります。繁殖時季には粉米に生卵黄味を茹た卵米といふのがありますから與へでもよろしい。此卵米は是非ではありませんが傳書鳩などに與へられてゐる鳥[illegible]滋養物であります。

◇……籠の[illegible]き又水を入れて[illegible]さへ浴びさせ[illegible]出しておきます。

◇……抱卵には壺巣を與へます之は藁で編んだもので小鳥屋で賣つてゐますから便利です。

◇……巣引の回數は毎年春秋の二期、一期に二回、一回の産卵は四個乃至六個ですがわるい鳥になりますと孵らぬものがあります。平均四個と見て一年に十六個、二十日すれば巣立ちをし二ケ月目にはもう成鳥となりますからこの位榮しいものはありません。

◇……値段は色々ありますが安いところで一羽四圓位から十圓、高いのになりますと前記した樣に數百圓のものもあります。然しなれぬ方は最初安いものから始め經驗を經てからよいものに移るのがよろしうございます。

◇……御買になる場合は成るべく毛並の揃つたものをえらび不活潑の樣子があるものは避けます。又糞便に注意することも肝心でよく下痢便をする鳥は尿か汚れてゐますから之はに避けにならねばなりません。

◇……最後に抱卵中は最も大切な時期ですからよく氣をつけてやり壺巣には適當な巣草を入れてやります棕梠の皮をほぐしたものがよろしいでせう。雛が一同孵化する毎にそれまで使つた巣草を捨つて新らしく草を準備してやりなさい。

磐新顧問
（照合を歡迎す）

（問）或會社が經營困難に陥り破産いたしましたので小生はその債權者として裁判所に債權の申立をいたしましたが破産管理人が異議を申立たと裁判所から通知がありました此儘放置すれば小生は權利を失ふでせうか、又は小生より裁判所へ訴訟を提起すべきや又裁判所より更に呼び出しの通知ありや右の項御教示下されたし（木村）

（答）あなたの債權が確實であればその證據書類を添へて裁判所へ御差出しなさい、債權は決して消滅いたしません又あなたから訴訟をする必要もありません但あなたの届出でられたのが裁判所で定めた債權届出期日及び債權者集會期日以後であれば更に費用を添えてあなたの債權を認めさせるため債權者集會を請求なさいそこであなたの債權が認められた上は破産財團の配當に加入する權利が得られます。然し其以前に强制和議が成立して居ればその和議に從ふほかありません右の手續を濟まぬうちは裁判所から呼び出しが來ない筈です

※明日の吉凶※
舊暦十月十五日 新暦十一月九日

▲一白 進まんとして進まず相談事は後日にすべし▲二黑 陽氣表し現れざれど思ひ半なれば願は叶ふ▲三碧 目先きの利かぬ日約束事は見合す方が勝ち▲四綠 自信强く勞を厭はざれば物事達成すべき日▲五黃 一致結合して事に當れば難事にも勝つべし▲六白 出先に長居すれば人の口舌を背負ひ込む▲七赤 爲すこと圖星に當る手控するは却て損▲八白 意志さへ堅ければ不安も自然と除かるべし▲九紫 遲々たる運氣の次第に伸び行く日たり

講談

血で血を洗ふ（181）

高橋掬太郎創作
布施中八郎挿畫

清之助の決心

「ねツ！縁とは……？」

清之助は反問したその聲は激しく狼狽してゐた

「はゝゝ何も驚くことはない、縁とはそれ主從三世の縁ぢや」

昌康は冷嘲の色を含んで笑つた。

清之助は明らかに感弄されてゐることを知つた惡熱が油を煎りつけるやうに背筋を流れた。彼は無言であつた心中では最早觀念の眼を閉ぢた

しかし彼は生母深雪の方に迷惑を及ぼしたくないことそればかりを案じた

深雪の方も昌康が取替へ子の秘密をしつて皮肉なことを云ふのが判つた

（たゞなつかしい我が子…と、人目がなかつたら清之助を抱きしめたかつた、生み落した時から顏を見たことのない我が子が立派な若者になつて突如現はれたのであるからその歡喜と驚愕とは例へようがなかつたそして清之助の顏を見た時十八年の永い間行方不明になつてゐる戀しの人成昌の面影をありありと見る心地がした

「どうぢや明日から登城して近習の役を相勤めてくれぬか」

と昌康が再び云つた

そして深雪の方に向つて

「そちも清之助が近習役を致さば毎日顏を見ることが來て嬉しかろう」

と、にやりと笑つた

「は、はい」

深雪の方は他に答へようがなかつた

「はゝゝ左樣であらう」

昌康は勝ち誇つた色を浮べて笑ふのであつた

「どうぢや、厭やか？」

「お請け仕ります」

清之助は斯くなる上は逆らはぬがよいと考へた

（どうせ見破られてしまうた上からは恐圖々々するだけ見苦しい卑怯未練な振舞を致しては相成らぬ、天下の名將を謳はれた父成昌の名を辱しめざるよう平然として成行に任して行こう）

と彼は心に決心したのである

「うむ承知致してくれるか余は嬉しく思ふぞ」

昌康は喜ぶように微笑んで云つた。昌康のためには清之助は唯一人の甥であるけれど清之助のために昌康は仇である清之助が存在する限り昌康は枕を高く寢ることが出來ないのである。清之助か昌康に敵意を含んでゐることは先程からの清之助の樣子を見て昌康ばよく判つた、勿論成昌に忠義の神部清左エ門が育て上げたのであるからそれは當然のことであつた

昌康の心では清之助を速かに亡き者にしたかつた、女の千世姫さへ怖れて殺さうとしたのであるから成昌の子が立派な男であることを知つた上は生かしてたけないと思ふことは當り前のことであつた、しかし何も罪のない者を殺害する譯にはゆかぬ、神部清左エ門が亡き今日でもまだ成昌に忠義の心を抱く者は無いとは云へぬ、また城代家老神部清左エ門の遺子となつてゐる清之助を故なく討つては他への聞こえもよくない」と云つて實は神部の子でなく成昌の遺子であると云つては却へつて討つはけにはゆかない異腹でこそあれ成昌は兄そして清之助は唯一人の甥如何に血で血を洗ふ戰國時代でもそれは許されることでない殊に豐臣秀吉が天下を治めて忠孝仁義の道を重んじてゐる折柄兄の子清之助を故なく討つことはならぬ、成昌と昌康が兄弟乍ら敵同志の狀態であることは他は知らないで表面だけ何氣ないやうに矢張り神部清左エ門の子としてたくより仕方がなかつた

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい
平町五丁目（釜屋横町）
須藤まつの

期十二月末日マデ間
記
日々皆樣の御贔負に酬ゆる爲め左記の通り大々的勉强仕り候是非引續き御愛顧の程御願申上候
梅 參圓也（御一人前 藝妓、車賃往復 御酒御料理三品）
松 五圓也（御一人前 藝妓、車賃往復 御料理五品）
櫻 七圓也（二人樣デモ差支アリマセン 藝妓、車賃往復 御料理七品）
（以上現金ニ限ル）
割烹 ときわ 松ケ岡公園池ノ端 電二二六番

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書なり被下れば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社 平出張所 電話 六〇三番 五四一番

内科、外科、婦人科。小児科 花柳病科。
磐城病院
平町田町本通り（電話一一四番）
入院隨時

片濱自動車運轉
平、高久、豊間、江名
停留所
一丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一二三屋、江名山口屋
電話…二一七番 …一四二番（御三人以上はお迎ひに參上致します）
平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木 片濱自動車商會

金牌一等賞受領 數回
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番
◎徒弟入用 徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候

平町紺屋町 吉田眼科醫院

財界不況に伴ひ値下斷行
十一月二日ヨリ
カツレツ 二十錢 カレイライス 二十錢
メンチカツ 二十錢 ハヤシライス 二十錢
ハヤシビフ 二十錢 ポークライス 二十錢
御酒 一本 二十錢
右品出前モ同値……
西洋御料理
カフエータヒラ
平町一丁目（電話六二〇番）

三井呉服店の陳列會於新館
十一月一日ヨリ
◈今秋流行新製品
一ショール
一着尺モスリン
一友仙モスリン
商品豊富
◈店内には紅葉ご自慢の菊花京人形とアメリカ人形陳列是非御來觀の程奉希上候
◈おつとめ特價品
▲白時雨毛一反物 九十錢
▲珍柄ネル一反物 一圓二十錢
▲白キャラコ足袋 二十錢
▲黒朱子足袋 三十錢
▲兒コール足袋 二十八錢
平町三町目
三井呉服店
電話三十八番

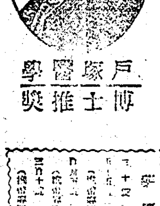
初夏の惱み
生殖機能衰弱
神經衰弱
△倦怠衰弱を覺ゆる男女は注意せよ

トツカピン

生殖器衰弱（徵候）
△遺精、夢精で日増しに衰弱する
△精力衰微して、根氣なくなる
△早漏、陰萎、無精となる
△視力が減退して、肩が凝る
△容色年寄臭くなり、意氣消沈
△身心倦怠、腦力減退す

神經衰弱（徵候）
△頭が痛いボンヤリして氣が鬱ぐ
△物忘れし易く、勘違ひする
△決斷力鈍く、グズ〳〵の人間となる
△何でもないことに恐怖を感ずる
△眠い癖に夜分安眠不能
△逆上せ易く、便秘し易し
△息切、動悸がして、胸苦しい
△感情に激し易く、涙脆くなる
△婦人はヒステリーとなり、嫉妬する

驚だ……と思ひ乍ら、つい多忙にまぎれて、ウカ〳〵と日を送つて居る裡に、症狀は一歩一歩惡化するのです。本廣告を讀んだ瞬間、冷靜に我身に返つて、右記症狀の一つでも自覺すれば直ちにトツカピンを服用せられよ。トツカピンは生殖器、神經、精力の絶好賦活劑にして、人生幸福を多大ならしむる底絶せる藥効は海外にまで名聲を擅にし、實驗男女は偉大なる何物かを得たるが如き心强さを體驗せしむる唯一の現代文化藥である。



戸塚醫學博士推奬

發賣元 丁子堂藥房
東京市銀座新肴町八番地 振替口座東京七二二一番
大阪市西區立賣堀北通二ノ九 振替口座大阪百六番

◎全國到る處の藥店にあり

兒童達の爲めと存じ 早朝から勞働罷り在り候

五十の坂を越いた一婦人から 金十圓を學校の基本金へ

平町の小學校宛に去る六日達筆な女文字の次の如き書面に金十圓を封入した一通の書狀が第二小學校に舞込んだ文面に

拜啓秋冷の候御校益々御隆盛奉賀候就而私儀例年の如く勤儉貯金仕候金拾圓程積金致し候に付き御校基本金へ御編入下され度御願申上候學校のため兒供達のためと存じ候へば朝は三時より夜は九時までの勞働にも左程疲勞も感んせず寧ろ何事にも精出て其の勞働が恰も樂園にあるかの樣な氣分に有之候、自信と信念とをもに働く私し年令既に五十の坂を登りつめ仲々若者に負けじと働き居候、今後共貯金致し寄附仕り度候間何卒兒供達にも宜敷御傳へ下され度御願申上候先は亂筆にて斯くの如斯御座候　敬具

十一月四日

薄葉　かね

此の薄葉かねと言ふ人は平町新川町の煎餅屋の御內儀さんで年々十一月頃になると必らず金十圓宛を寄附してゐた奇篤な人で其の寄附金もあり餘つた金ではなく各れも自分の汗水を流して働いた尊い血の結晶であるだけ伏見町長も非常な感概をもつて此の寄附金を有難く受納すると共に町としても何等かの謝意を表したいと語つてゐた

貯金、郵便、電話共 夥しき激增

財界の好轉を物語る 平局去月中成績

平郵便局に於ける各種取扱事務は孰れも逐、非常な勢で增加を示しゐる即ち去月中に於ける取扱概數を前年同期の取扱數に比較すれば通常郵便物の引受に一、四萬四百六十五通、三萬七千通配達は二十三萬六千二百二通で二萬一千通と言ふ驚くべき大增加で電話の如きも市外へ一萬八百五十通語、二千六百餘市外より一萬四千九百四十二通話で四千四百餘の激增市內の總通話數四十七萬三千四百餘と言ふ莫大な數字を示してゐる更らに平局で局長以下局員が必死となつて普及宣傳に努めてゐる貯金や保險の如きも貯金預入六千百七十二口で金額七萬五百九十七圓餘で口數に於いて五百口金額に於いて三萬三千餘圓の大膨張を見せ保險の口數千二百五十七口で八百二十九口の增加其の他孰れも驚く程の增加率で之れは財界が漸次好轉し來たる徵候で喜ぶべき現象であると

豐間標語當選

生徒から左の三名

石城郡豐間小學校では體育デー記念として兒童から體育宣傳標語を募集したが其の中左の三名を當選に決定した

▲一等「健康にまさる幸福なし」　大中　駒治

▲二等「毎朝海邊で深呼吸」　四家　雪子

▲三等「日本全体運動第一」　四家　麗子

先づ感じたのは 學校內の整頓

先任各位に敬服すると 如才ない磐女校長

磐女校同窓會の爲め學校長會議から豫定を一日早めて歸校した新磐城高等女學校長木村寅二氏を校長室に訪ふと好々爺然たる木村校長は親く記者を迎へて呉れた如何です現在職員及故櫻井校長等の訓陶により縣下で誇つてゐる當校へ着任されて何か殊更の御感想でもありませんかとやると「何しろ赴任翌日から校長會議の爲若松の方へ出かけまして昨日歸つたばかりで先生方にもまだしみ〴〵と話も出來ない有樣で之れと言つて申上げる事もありませんが先づ驚かされたのは校內の美化されてゐる事です之れは男子校と異なり女子校が一般に整頓されてゐる事は何處の學校も殆ど變りはありませんが當校がこれを取立てゝ申上げる程に遺憾なく美化されてゐる事は實際他地方に餘り其類を見ませんこれは精神の修養と生徒達に對する統一が心ゆく迄完全に訓陶されてゐるからで善美の校舍に學び整頓され校庭に遊んで初めて身体も强壯ならしめ健全なる學問を修めて行く事が出來るので誠に結構な事であると共に之迄敎鞭をとられて來た諸先生に對し內心感服してゐる次第です」云々

素ッ破ぬ記

戎むべき平町の商人

一記者

「こんにちわ、鹽引を下さい」「一本ですか半身ですか」「お客さん呆然として「そんなにいりません二切れで澤山です」此處に至つて五十集屋、しかも冷然として「一本か半身でないと賣られぬ」とある、これは平町に見る店頭情景で近在近郷のお百姓さん相手の大ざつぱな商法ぶりの舊態を其まゝ踏襲した餘弊?である小人數の家庭殊に俸給生活者の如き鹽鮭の半身以上の買込みは大荷物である、ひと切り鹽鮭に限らず凡ての買物は此調子だから驚く。

◇

時代は複雜に細かくなつて來たのだ、豆腐の四半分牛肉の二十匁買が仰合される世の中であるのに偏り平町のみが時代ばなれの鹽引一本賣は甚だ珍であり又下手なやり口である、尤もそれは稀れであるが」即ち大口取引の弊からいらぬ物迄背負ひ込み支拂ひの嵩むに氣付かぬ所以とも見られる。

◇

更に店頭に於ける接客法だが客が今日はとか御免なさいとか云ふと店番が「はい」と應ずるのが例で無愛想ともなんとも初めての人なら必ずぐつと癪にさわる更に歸る時ごめんどう樣と客が述べると之には「ヒイヘー」とまるで野良犬でも追い立てる樣な聲のみで有難の意義がふくまれてゐないからあきれてしまふ、敢て惡口をならべるんじやない、平町の商人に云はしたら買ふ人も賣る人も五分五分の權利だとあればそれまでだが、大いに改むべき事でなからうか、行きよい店、入りやすい店の繁昌ぶりの裏は此邊のコツが遺憾なく徹底してゐるものなることを

品川爭議

解決の近い 代表重役會見

石城郡湯本町品川白煉瓦爭議は罷業職工百七十名中去る五日來四十名の就業者を出し結束崩れ初め爭議團側に不利となつたが東京の請負業者秋本元夫氏仲裁に入り目下調停中で會社側では解雇者廿二名の復職要求には應ぜぬが相當の解雇手當は支出し解決を見る模樣で本社重役と會見すべく六日洲川工場長及び爭議團の小野繁盛氏等上京した

次回は平町

縣銀行同盟會

縣銀行同盟會の第三十一回總會は別項の如く去る六日福島市に開かれたが次回は平町で開催にきまつた

小名濱商港實現（上）

祝賀會席上演說要旨

小名濱　小野生

⊠第三に小野前縣議

◎次に申上げねばならぬ功勞者としては小野前縣議であります、が、町の前途に對しましては、恰も自分の事の樣に殆と議員在任の四ケ年間は家事を擲つて沈滯疲弊せる本町の救濟に奔走し之を救ふの道は、鐵道や商港の二問題を解決せねばならぬと云ふ見地より、先きに淺野翁を動かして百萬圓寄附の段取りを作り縣當局をして、今日まで絕へず弦綫を與へずに、更に政黨上の機微を察して能く政黨內閣の政策に近合して今日あらしめたと云ふ事は、吾々町民が朝夕記憶より離れる事の出來ない功勞である殊に先考小野賢司翁の漁港實現に努力した一事と對照して、益々其勞を感ずるものである、

⊠第四淺野總一郎翁

◎淺野翁は身微洩より起して本邦の大實業家になつた處に活眼を有して居る現在の炭業界が衰頽の境遇にあるのを救濟するのには運賃の節約より外にないそれは現在の汽車より、汽船に換ふるのみであると小名濱築港事業に目をつけた小野前縣議と知り合となるに至り、川淵知事時代より、縣當局を纈かして二十萬圓の低頬から百萬圓の大寄附額に進むだ、之の百萬圓の寄附金あればこそ、縣の財政計劃も立ち築港の運びに至つたのであるから、淺野翁亦商港實現に對しては大恩人たるべき點に於て異論がなかろう

⊠最後に鈴木町長

◎最後に申上げて置かねばならぬ一事は鈴木町長である、町長四五年以來は大分旅行好きになつて北海道九州、果ては朝鮮と云ふ樣に旅行した、その用件は何時でも港灣協會の總會である、吾々が見た處を遠慮なく話すと、町長は協會の總會に托して見物に出懸けたのだと、陰口を云ふて居た、然るに商港が實現に際しては總會毎に何時でも小名濱商港の修築を決議させた事と協會の理事中に知己が出來たのとは尤も此實現に力があつた事である、先づ考へて見ると第二種重要港灣としての資格は少くとも清水港や四日市港の如く既に商船などの出入があつて初めて其資格に達するものである、然るにその一に當るものはあるかと質問さるると、此れからですと答へる外は別に答辯がないその未來をして承服せしめたと云ふ事は町長が再三顏を出して、あの熱心な町長の事であるから將來を保證して指定の努力するがよいと協會の努力が茲に至つた事は町長でなければ當底出來ぬ事であると云ふ談を協會の幹事大瀧氏に聞かされた時は、吾々の觀測が餘りに桁外れてあつた事に驚愕したのみならず町長に對して漸死せねばならぬ程恐懼した此一事を以ても町長が如何に此等事業の爲めに努力を拂つたかと云ふ事が明瞭する

⊠結　論

以上述べた四五の人物は殊に功勞あるものとして申上げたのであるが、されば此人々のみで實現するかと云ふとその他又々大事な事がある、それは吾々町會議員がなした行動に對して一言半句の小言を與へられない許りでな常に後顧の憂をなからしめた町民諸君の後援と一致協同の結晶とか此等問題を容易に解決したものと考ふるのであります而して此喜びをして更に大ならしむる爲めには更に縣會や、國會も目睫に迫つて居ります、此等に對する對策に就ても今日まで與へられ後援を續けられまして、町當局をして蹉跌ない樣に鞭撻下さる樣切望して已まぬ次第であります　（完）

可成の大打擊 治らぬ商人連

會社の立場も氣の毒な 磐炭糧食部問題

內郷村磐城炭礦の糧食部が同社直營から茨城縣土浦町五十銀行の重役岡本儀平氏個人の經營に移つたので從來同礦と深い取引關係ある地方商人間に大恐慌を來してゐることは既報の如く善後策を協議中であつたが俄然一ヶ年六十萬圓に上る糧米は岡本氏緣故の他府縣から移入する模樣あり其の他二百萬圓に近い日用諸雜品も漸次地方商人の取引から離間されんとしつゝあるので平町を中心とする關係諸商人の狼狽一方ならざるものあり有志を介して直營復舊の運動とも見せてはゐるが利殖に傑出する淺野社長が此擧に出づるには深き事情の伏在するを想像するに餘りあり現在のところ到底直營復舊の見込ありさうでない

諸商人は賣掛金の未決濟的に少なからぬ打擊を受けてゐる同礦に向けて種々なる憶測を放ちつゝあるも會社內部に於ても又該糧食部の個人讓渡をば淺野翁近頃にない失策かの樣に語るものも少なくない

メートル宣傳　平署

ではメートル法度量衡の普及實施促進を計るため十三日湯本町十四日小名濱町二ケ所でメートル法宣傳の講話會を開催、縣より係官出張のはず

電話

至急買ひたし希望の方は申出で下さい

姓名在社

水仕二人が共謀して 自由廢業の願ひ

平人事相談所で 關係者を取調中

石城郡赤井村高萩佐藤時也方抱へ水仕植田キク(三二)同二瓶フヂ(三〇)の兩名は七日午後十時頃同家を逃げ出し平署人事相談所に出頭保護を願出たので係官が取調べると雇主佐藤は何かに付け兩人を虐待するので居堪らず二人相談して同家を逃げ出し自由廢業をなすと申出たので平署では今八日午前八時雇主を呼出し嚴重取調べ中

農工商を併せて 有職者二萬人

其他は無職と女小供 平町役場の調べ

石城郡各町村は目下縣の指令に依り町村の戶數、人口職業別其の他に亘つて詳細な調調を爲した上明後十日迄に縣統計課に報告する手筈であるが今之れを平町に就いて見るに現在人口は二萬五千四百七十八名で、內本籍者一萬三千八百三十二名他は全部寄留者でこれを職業別にすると商業は最も多く五千十四名、農業一千三百四十三名、公務自由業一千三百四十三名、工業八百九十七名其の他合せて有職者が九千五百六十九名となり他は婦女子、無職者となるわけである而して同調査は頗る廣汎に亘るが故に從つてその苦心の程も一通りでなく然も同町は近く市制を敷くべき手順にある關係上最も愼重に正確を期し可及的精細な調査を爲したのであると

時言

糧食部が他手に移るからつて理窟にもなるまいどうせ相手は營利會社だ日本銀行が保證をせない位への事は先刻御承知の筈

□

木村新任磐女校長、初つから左ほど感服せなくとも「マア仕學はこれからだ、ぐらいの自尊心と瘦せ我慢がなけりやあネ

□

五十を越いた豐ならざる一婦人から小學校へ金十圓の寄附あり、世の篤志富豪と稱す者よ、わりやあ愧死するだけの良心がないか

□

主人の虐待を理由に水仕二人が自廢さわぎ、全体お前らはチヤヤホヤされる、氣で水仕になつたのかどうやらこいつ等も流行熱に浮かされたらしい

東京から一筆

秋の都は寂しいオーケストラを眼で聽く樣な感じがする、帝展の日曜は二つにわれそうな雜踏を極めた、秋の女は帝展によさわしいものの一つとして充分賞味してやつた

七日　山田　磐應

磐城新聞社御中

ナフトール 着尺
着尺モスリン
模樣名仙
平 龜田屋 電五七

鐵筋コンクリート
鐵骨組立
和洋建築
文化式建築
設計監督
土木、建築、請負業
合資會社 丸三森川組
社長 大森鎭平
東京日本橋南茅場町二〇
電話茅場町66四五二番

常磐第一ノ大炭礦タル磐城炭礦ノ石炭
石炭と「コークス」の特長
一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速
ドーシテアンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカト驚カレ一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス
値段正十貫目一俵金六十五錢也
平驛前 阿部石炭商店
電話二三七番

懇切迅速勉强は
―弊店のモットーであります―
磐城銀行御指定
ケーテー洋服店
平町材木町 高野幸一

强烈なる滋養と美味を以て例年御期待下さる
カキ貝御料理 相始め申候
カキフライ 一人前 三十錢
カキなべ 同 五十錢
カキよせなべ 同 五十錢
スガキ 同 廿五錢
品々
十一月一日より
洋式宴會仕出し
一の井
電話一六七番

登録商標
醸造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話 營業部二〇番 醸造工場二七番
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五七二三番
振替東京六八三二番